

第5学年 学びのカテゴリー 「暮らし」



5年1組は、自分や身近な人の「暮らし」をみつめていく中で、地域にいる高齢者の方の暮らしに興味・関心を抱いた。そして施設にいる高齢者の方と繰り返し関わることを通して、「〇〇さんの暮らしをよりよくするお手伝いがしたい」という願いが生まれ、プロジェクトが立ち上がった。しかし、そのプロジェクト活動で、思いもよらない事実が見えてきた。児童は、その事実から問題を見だし、解決に向けて、再び立ち上がる。

5年2組は、自分や身近な人の「暮らし」をみつめていく中で、障がい者の方の暮らしに興味・関心を抱いた。そして、実際に障がい者生活支援センターで働く身体障がい者の方と「幸せな暮らし」という視点を基に対話をした。対話を通して、その人にとっての幸せな暮らしがあることに気付いた。さらに、その人だけではなく、他の障がい者の暮らしに目を向け、学校の近くにある聾学校の児童の暮らしはどうか考え始めた。



干場 康平
佐藤 睦
伊藤 暢宏

5年1組

年間指導計画

「学びの 카테고리」：暮らし（全105時間）

第5学年の目標	(1) 問題解決力に関わって		暮らしを見つめ、よりよい暮らしを創造していく中で、自分で課題を立て、自分にできることを何かを考え判断し、解決に向けて実行することができるようにする。										
	(2) 関係構築力に関わって		暮らしを見つめていく中で、また、ある人の暮らしをよりよくするためのプロジェクト活動の目的に応じて、他者とながら、自分の考えを発信したり、他者の考えに共感したりしながら、互いに納得できる考えを生み出し、活動につなげることができるようにする。										
	(3) 貢献する人間性に関わって		暮らしにおける問題を「自分ごと」のように思い、少しでもその暮らしをよりよくするお手伝いがしたいという態度を養う。										
カテゴリー設定の理由	児童は第4学年の頃、学校にいる身近な飼育動物に関わり続ける中で、生命の尊さを身をもって実感し、動物に心から寄り添う姿があった。そんな児童だからこそ、身近な動物から、身近な人へと対象が変わったとしても、生命の尊さを身をもって、相手の生き方に寄り添うことができるであろうと考えた。そこで、第5学年では、学びのカテゴリーを「暮らし」とし、ある人の暮らしを見つめる中で見えてきた問題の解決を通して、幸せな暮らしとは何かを考え、自分はどうすべきかを探究していく過程を位置付けることにした。												
学びの基盤となる道徳的諸価値	よりよく生きる喜び・集団生活の充実・克己と強い意志・友情、信頼・真理の探究・親切、思いやり・相互理解、寛容・自主、自律・家族愛、家庭生活の充実・郷土愛・社会参画												
学びを構成する要素	生活 学校 家族 仲間 幸せ 愛 環境 自然 生き物 安全 健康 生命 歴史 人 ふれあい 喜び 笑顔 感謝 自分らしさ 個性 夢 決意 寄り添う												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
単元名(時数)	「暮らしを見つめる～ある人の暮らしについて考える～」 (52時間)						「暮らしをつくる～ある人の幸せな暮らしを創造する～」 (53時間)						
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> 「暮らし」とは何かをイメージし、現段階での自分や家族にとっての幸せな暮らしとは何かを考える。(話し合い・授業参観でのインタビュー) どんな「暮らし」があるのかを調査するために地域に出て、加納公民館「いきいきサロン」にて、高齢者の方と出会い交流する。(フィールドワーク) 「いきいきサロン」に通う元気な高齢者の方とは違う方の暮らしについて知るために、高齢者施設「あっとほーむ城東」に繰り返し通い、高齢者の方と交流する。(フィールドワーク) 宿泊研修で高山に行き、高山市一宮地区の「暮らし」を体験し、そこに暮らす高齢者と語り合うことを通じて幸せな暮らしとは何かを考える。(フィールドワーク) 認知症の方と出会い、認知症のことを知りたいと願い、入学さんから「認知症を学ぶ会」を開いてほしいと願い、学ぶ。(外部講師) 自分たちの力で口口さんの暮らしをよりよくするプロジェクトの活動を行う話し合う。 			暮らしをつくるプロジェクトに関する情報を収集する	<ul style="list-style-type: none"> 暮らしをよりよくしたいと願う対象の方や、その方に関わりのある施設の方やご家族とながら、情報を収集する中で、どんな活動をするべきか考える。(話し合い・フィールドワーク) 口口さんの暮らしの問題解決を目指したプロジェクト活動を立ち上げる。(話し合い・フィールドワーク) 			<ul style="list-style-type: none"> 高齢者施設の職員と協働して自分の考えたプロジェクトについて改善を図る。(フィールドワーク・話し合い) 目的や相手に応じたプロジェクト活動の準備を行う。(フィールドワーク・話し合い) 口口さんの幸せな暮らしを目指したプロジェクト活動を実施する。(フィールドワーク) プロジェクト活動後、活動の効果について振り返り成果と課題を明らかにする。(話し合い) プロジェクト活動を通してより強くなった「もっと多くの方に、高齢者施設のおじいちゃんやおばあちゃんの暮らしについてを知ってほしい」という願いを基に、「暮らし展」を開いたり、高齢者施設の方を学校に招いてお互いに楽しい時間を生み出す「交流会」を企画して、運営する。(学級間や学年間での話し合い・フィールドワーク) 探究活動の成果を、社会福祉協議会、NPO法人の方に発表する。(発表会) 					
想定される●ジレンマ■エラー【道徳的諸価値】	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者施設の口口さんは、どうして私の関わりに対して、反応が薄いのだろうか。【高齢者施設の多くの方が認知症であり、反応したくてもできない方もいるという事実】 ●認知症の口口さんにしてあげたいことがあるけれど、嬉しいことなのか嫌なことなのか見えない。本当にそれは口口さんにとって嬉しいことなのだろうか葛藤する。【よりよく生きる喜び、相互理解、寛容、親切、思いやりなど】 				<ul style="list-style-type: none"> ■口口さんの暮らしに対する価値観と、自分の暮らしに対する価値観が違う。だからこそもっと寄り添わないといけない。 【よりよく生きる喜び・真理の探究・郷土愛・社会参画など】 			<ul style="list-style-type: none"> ●私のしていることは、特定の高齢者の方にしか貢献できていないのかもしれない。 ●口口さんのことを幸せにしたいと願って考えた活動だと口口さんのニーズに合った幸せな時間をつくれるが、それは特定の相手のみの幸せのため、さみしい気持ちでいる高齢者の方が出てくる。だから、一人もさみしい人を作らないよう高齢者全体を対象にした活動にしたいのだが、一人一人のニーズに合った活動とはいかないため、幸せな時間を生み出すのは難しい。どうしたらよいのだろうかと葛藤する。 【よりよく生きる喜び、家族愛・家庭生活の充実・自主、自律・克己と強い意志・社会参画など】 					
人材活用施設	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜市社会福祉協議会地域支援係 地域福祉コーディネーター 児玉 正貴子 杉山 弘 岐阜市地域包括支援センター南部 主任介護支援専門員 入学 佳宏 加納東地区自治会連合会 会長 川田 政美 岐阜大学地域科学科 富樫 幸一 和光会グループ ファミリーコート城東 所長 宇野 直之 				<ul style="list-style-type: none"> 岐阜市地域包括支援センター南部 主任介護支援専門員 入学 佳宏 和光会グループ ファミリーコート城東 所長 宇野 直之 			<ul style="list-style-type: none"> 岐阜市社会福祉協議会 地域支援係 地域福祉コーディネーター 児玉 正貴子 杉山 弘 岐阜市地域包括支援センター南部 主任介護支援専門員 入学 佳宏 加納東地区自治会連合会 会長 川田 政美 和光会グループ ファミリーコート城東 所長 宇野 直之 NPO法人泉京・垂井 中根 翔子 					
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> 国語：きいて、きいて、きいてみよう-インタビューをするとき-(話す・聞く) 社会：わたしたちの生活と食料生産 算数：整数と小数 理科：魚のたんじょう 花から実へ 家庭科：私と家族の仕事 			<ul style="list-style-type: none"> 国語：どちらを選びますか-互いの立場を明確にして、話し合う- (話す・聞く) 			<ul style="list-style-type: none"> 国語：提案しよう、言葉とわたしたち-事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう- (話す・聞く) 統計資料の読み方-グラフや表を用いて書こう- (書く) 社会：わたしたちの生活と環境 算数：帯グラフと円グラフ 家庭科：家族ほっとタイム、やってみよう家族の仕事 						

5年1組 単元シート 単元名 「暮らしをつくる」 ～あの人の幸せな暮らしを創造する～ (53)		本単元の日標		
		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
		高齢者の幸せな暮らしを創造しようと、自分で課題を立て、自分にできることは何かを考え判断し、解決に向けて実行することができるようにする。	高齢者の幸せな暮らしを創造する中で、他者とつながり、自分の考えを発信したり、他者の考えに共感したりしながら、次の活動へつなげることができるようにする。	高齢者の暮らしを「自分ごと」のように思い、少しでもその暮らしをよりよくするお手伝いがしたいという態度を養う。
活動の計画	<p>〇〇〇さんの暮らしを幸せにするプロジェクトが、よりニーズに合うものにするために、何度も会って話をします。</p> <p>〇いつも〇〇さんと関わっている高齢者施設の職員と協働して、プロジェクト活動を改善する。(8)</p>	<p>〇〇〇さんのニーズに合ったプロジェクト活動の準備を行う。</p> <p>〇〇〇さんへのプロジェクト活動を実行する。</p> <p>〇プロジェクト活動を振り返り、成果と課題をまとめ、次に何をすべきか、何をしていきたいかを考える。(15)</p>	<p>〇もっと多くの人に、高齢者施設のおじいちゃんやおばあちゃんの暮らしを知ってほしいと願い、「暮らし展」や、高齢者の方と楽しい時間を生み出す「交流会」を企画・準備を行う。</p> <p>〇「暮らし展」や「交流会」を実行する。(16)</p>	<p>〇高齢者の暮らしをみつめ、行動してきた中で学んできたことを伝えたいと願い、社会福祉協議会やNPO法人に発表の場を持ち掛ける。</p> <p>〇高齢者の暮らしを探究してきた成果をまとめ、社会福祉協議会、NPO法人の方に向けて発表する。(14)</p>
加筆修正欄				
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分はまだまだ〇〇さんのこと知らないから、もっとたくさん話して知っていききたい。 ・自分たちのプロジェクトは、本当に〇〇さんに合ったものだろうか心配。 ・今日、〇〇さんと話してみて、もっと…したいと思った。これはきっと〇〇さんに合ったよりよいプロジェクトになるはず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんのところへ行って、プロジェクトに関わるやり取りをしたら、～のような反応だった。作戦を変更して準備に取り掛かろう。 ・プロジェクト活動を振り返ってみると、成果としては、より〇〇さんのことを知ることで、〇〇さんに合ったプロジェクト活動ができた。 ・課題は特定の人にしか幸せをつくっていないこと。施設の多くの高齢者の方にも何かできることをしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと多くの人に、自分たちと同じように高齢者の暮らしについて身近に感じてほしい。 ・学校で「暮らし展」を開き、今まで自分たちが学んできた高齢者の暮らしについて発信する機会をつくろう。 ・もし学校に来られる高齢者の方がいたら、感染対策をして、楽しく遊ぶ「交流会」をすれば、きっと身近に感じてくれるはずだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の暮らしをみつめ、自分たちに何かできないかと考え、実行してきた中で、暮らしに関わる人として大切な生き方をたくさん学ばせていただいた。この生き方を自分たちの言葉で広げていきたい。 ・社会福祉協議会の人や、他にも聞いてくれる人を見つけて発表したい。そうすれば、本当の意味で、広く高齢者の暮らしを幸せにするきっかけをつくることができるかもしれない。
実際の姿				
■ エラー ● ジレンマ	<p>■私のしていることは、特定の高齢者の方にしか貢献できていないのかもしれない。</p> <p>●〇〇さんのことを幸せにしたいと願って考えた活動だと〇〇さんのニーズに合った幸せな時間をつくれるが、それは特定の相手のみの幸せなため、さみしい気持ちでいる高齢者の方が出てくる。だから、一人もさみしい人を作らないよう高齢者全体を対象にした活動にしたいのだが、一人一人のニーズに合った活動とはいかないため、幸せな時間を生み出すのは難しい。どうしたらよいのだろうか葛藤する。</p>			

5年1組 本時案

(1) 目標

自分が関わってきた特定の相手以外の「私にはないの。」や「さみしい。」の言葉から、多くの高齢者の方々の暮らしをよりよくする活動内容について考え・議論することを通して、特定の高齢者への貢献にとどまらず多くの高齢者に向けて貢献するための最適なプロジェクトをつくることができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

プロジェクト活動で関わる特定の高齢者以外の方のさみしい思いに共感して、より多くの高齢者を幸せにするための最適なプロジェクトとは何かを考え・議論する。(社会参画、相互理解、思いやり)

本時 (23/54)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け									
<p>1 本時の課題を設定する</p> <p>○「今日は、何をすべきですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は、多くの高齢者の方にできることはないか話したい。理由は、プロジェクト活動で□□さんに喜んでもらったことはよかったけれど、隣の□□さんが「私にはないの。」と言われて申し訳なくなったから。 プロジェクトの相手を多くの方にすればと思うけれど…。これまで、暮らし方が違うと、幸せに感じるところも異なると学んできた。実際に□□さんに相手を決めて、たくさん関わることで、□□さんが必要としていることを知ることができ、プロジェクトは成功した。多くの方に向けたプロジェクトだととても難しいと思う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>高齢者施設にいる多くの方の暮らしをよりよくしていくために、私たちができることは何かを考えよう。</p> </div> <p>2 自分たちに何ができるかについて考えをもつ</p> <p>※課題設定後、児童は自分の机でワークシートに考えを図にまとめたり、文章にしたりして考えをつくるケースや、自席から離れ仲間とつながり、意見を交わし合うことで自分の考えをつくるケース、自席に人を集めて少人数で自分たちの考えを議論することで考えをつくるケースなどが考えられる。</p> <p>3 今後の活動内容について考え・議論する</p> <p>○「それでは、どのようなプロジェクトが考えられますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 私はこれまで、幸せ暮らしプロジェクトの活動で、□□さんが求めていることやすべきことは何かが分からなくてつまづいたときがあった。でも、施設職員のIさんに「じゃあ、直接聞いてみたらどうかな。」とアドバイスをもらい、実際に聞いてみたことで、□□さんが求めていることが見えてきて、プロジェクト活動がよいものになった。そのことを生かして、今回はアンケートを取り、高齢者の方の声を集めて、そこで共通のグループをつくり、実行するのはどうだろう。 そのプロジェクトでいくなら、アンケートは、書けない方もみえるので、私たちが一人一人の顔を見て、お話をしながらメモを取っていくのがよいと思う。 前に職員のUさんから、おじいちゃんおばあちゃんが「いつ来るの。一緒に過ごすのが楽しい。」と言っていると教えてもらったことがあった。だから、たくさんの方と一緒に過ごすことが何より楽しいと思う。そして、おじいちゃんおばあちゃんの暮らしを知ってもらえたら、僕たちのようにより身近に感じてもらえるかも。 私は、「暮らし展」も開催したい。「暮らし展」は、すぐにおじいちゃんおばあちゃんには楽しい時間をつくることのできないかもしれないけれど、おじいちゃんおばあちゃんのことを地域の方や学校の仲間知ってもらえることで、多くの高齢者の暮らしをよくしていくきっかけになるかもしれない。 <p>4 本時の学びを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は、これまで□□さんのことだけを考えて活動していたけれど、さみしい思いをしている方がいることを知り、もっと多くのおじいちゃんおばあちゃんの暮らしを支えるプロジェクトがよいと考えが変わりました。今日の話合いで出たたくさんのプロジェクトをみんなで力を合わせて実行していきたいと思いました。 	<p>○ここまでのプロジェクトについて、道徳的諸価値や自分の経験を基に問題を見だし、課題を設定することができるように以下のような表を板書に位置付ける。</p> <table border="1" data-bbox="1507 603 2072 906"> <thead> <tr> <th></th> <th>特定の方</th> <th>施設の方みなさん</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活動の効果</td> <td>○関われる時間が多く、相手の暮らし方に合った楽しいプロジェクトを実行できる。</td> <td>▲関われる時間が少なく、全員の暮らし方に合ったプロジェクトになるのが難しい。</td> </tr> <tr> <td>高齢者の反応</td> <td>▲特定の相手以外の方にさみしい思いをさせてしまう可能性がある。</td> <td>○特定の方との関わりではなく、全員の方と関わるのでさみしい思いをする方が減る。</td> </tr> </tbody> </table>		特定の方	施設の方みなさん	活動の効果	○関われる時間が多く、相手の暮らし方に合った楽しいプロジェクトを実行できる。	▲関われる時間が少なく、全員の暮らし方に合ったプロジェクトになるのが難しい。	高齢者の反応	▲特定の相手以外の方にさみしい思いをさせてしまう可能性がある。	○特定の方との関わりではなく、全員の方と関わるのでさみしい思いをする方が減る。
	特定の方	施設の方みなさん								
活動の効果	○関われる時間が多く、相手の暮らし方に合った楽しいプロジェクトを実行できる。	▲関われる時間が少なく、全員の暮らし方に合ったプロジェクトになるのが難しい。								
高齢者の反応	▲特定の相手以外の方にさみしい思いをさせてしまう可能性がある。	○特定の方との関わりではなく、全員の方と関わるのでさみしい思いをする方が減る。								
	<p>○本質に迫った活動内容を考えることができるように、個や集団に対して、以下の方法をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えた活動内容が実現可能かどうかや、実現するために何が必要なのか問うことで経験や体験を基にして考えるきっかけをつくる。 多くの高齢者を対象にしたその活動内容は、本当に一人一人に合ったものなのかを問うことで道徳的諸価値を基に考えるきっかけをつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>多くの高齢者に向けて貢献するためのよりよいプロジェクトを考えている。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> 議論中は発言内容やワークシートのメモの内容、議論後は振り返りの記述内容で見届ける。 </div>									

5年2組

年間指導計画

「学びの 카테고리」：暮らし（全105時間）

第5学年の目標	(1) 問題解決力に関わって		暮らしを見つめ、よりよい暮らしを創造していく中で、自分で課題を立て、自分にできることを何かを考え判断し、解決に向けて実行することができるようにする。									
	(2) 関係構築力に関わって		暮らしを見つめていく中で、また、ある人の暮らしをよりよくするためのプロジェクト活動の目的に応じて、他者とながら、自分の考えを発信したり、他者の考えに共感したりしながら、互いに納得できる考えを生み出し、活動につなげることができるようにする。									
	(3) 貢献する人間性に関わって		暮らしにおける問題を「自分ごと」のように思い、少しでもその暮らしをよりよくするお手伝いがしたいという態度を養う。									
カテゴリー設定の理由	児童は第4学年の頃、学校にいる身近な飼育動物に関わり続ける中で、生命の尊さを身をもって実感し、動物に心から寄り添う姿があった。そんな児童だからこそ、身近な動物から、身近な人へと対象が変わったとしても、生命の尊さをもち、相手の生き方に寄り添うことができるであろうと考えた。そこで、第5学年では、学びのカテゴリーを「暮らし」とし、ある人の暮らしを見つめながら見えてきた問題の解決を通して、幸せな暮らしとは何なのかを考え、自分はどうすべきかを探究していく過程を位置付けることにした。											
学びの基盤となる道徳的諸価値	よりよく生きる喜び・集団生活の充実・克己と強い意志・友情、信頼・真理の探究・親切、思いやり・相互理解、寛容・自主、自律・家族愛、家庭生活の充実・社会参画											
学びを構成する要素	生活 学校 家族 仲間 幸せ 心 環境 自然 生き物 安全 健康 生命 人 ふれあい 喜び 笑顔 感謝 自分らしさ 個性 夢 決意											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名(時数)	「暮らしを見つめる～ある人の暮らしについて考える～」(52時間)						「暮らしをつくる～ある人の幸せな暮らしを創造する～」(53時間)					
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「暮らし」とは何かをイメージし、現段階での自分や家族にとっての幸せな暮らしとは何かを考える。(話し合い) ・障がい者の暮らしは幸せではないのか考える。(話し合い) ・障がい者の暮らしを見つめるために障がい者の生活を支援している人と出会う。(フィールドワーク) ・宿泊研修で高山に行き、高山市一之宮地区の「暮らし」を体験し、そこに暮らす方と語り合うことを通して幸せな暮らしとは何かを考える。(フィールドワーク) ・自分たちの力で「幸せプロジェクト」の活動計画を立てようとする。(話し合い) 		暮らしをつくるプロジェクトに関する情報を収集する	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしをよりよくしたいと願う対象の方や、その方に関わりのある社会とながら、情報を収集する中で、どんな活動をするべきか考え始める。(話し合い・フィールドワーク) ・障がい者の暮らしの問題解決を目指したプロジェクト活動を立ち上げる。(話し合い・フィールドワーク) 		<ul style="list-style-type: none"> ・雙学校にプロジェクト実行についてアドバイスをもらいに行く。(フィールドワーク) ・障がい者生活支援センターの方や雙学校教諭の助言を基に、プロジェクト活動を改善する。(フィールドワーク・話し合い) ・具体的な目的や相手を設定し、それに適したプロジェクト活動の準備を行う。(フィールドワーク・話し合い) ・障がい者の方の幸せな暮らしを目指したプロジェクト活動を実行する。(フィールドワーク) ・常にプロジェクト活動の内容(意味や意義、実際の効果)を振り返り改善策を練る。(話し合い) ・プロジェクト活動を振り返り、成果と課題をまとめ、そこで明らかになった課題を基に、次への取組について考える。(話し合い) ・プロジェクト活動を通してより強くなった「もっと多くの方に、障がい者施設のおじいちゃんやおばあちゃんのスバラしい暮らしを知ってほしい」という願いを基に「暮らし展」を開いたり、障がい者施設の方を学校に招いてお互いに楽しい時間を生み出す交流会を企画し、運営する。(学級間や学年間での話し合い・フィールドワーク) ・学年で探究活動の成果を、社会福祉協議会、NPO法人の方に発表する。(発表会) 						
想定される●ジレンマ■エラー【道徳的諸価値】	<ul style="list-style-type: none"> ■自分たちは障がいがあることが不幸だと思っていたけれど、幸せかどうかはその人の生き方によることか分かった。 ●障がい者にしてあげたいことがあったけれど、中村さんに聞いたら、必要とてなかった。なぜだろうかと葛藤する。 【よりよく生きる喜び、相互理解、寛容、親切、思いやりなど】 			<ul style="list-style-type: none"> ●雙学校の子の暮らし方からすると、自分は何か助けることができる立場なのだろうか葛藤する。 【よりよく生きる喜び・真理の探究・社会参画など】 		<ul style="list-style-type: none"> ■自分のしていることが、相手の暮らしを支えることにどうしてつながっていないのだろうか。 ●雙学校の子の児童を思っていたプロジェクトだけだと、自分たちは楽しいと感じるが、雙学校の子がそう思っているのか分からない。このままプロジェクトを進めていいのか、辞めようか悩む。 ■もっと障がい者の方の暮らしを知ってもらうためには、何をやる必要があるのか見えてこない。 						
人材活用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜市社会福祉協議会地域支援係 地域福祉コーディネーター 児玉 正貴子 杉山 弘 ・障がい者生活支援センター 中村 菜穂子 			<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者生活支援センター 中村 菜穂子 ・岐阜県立岐阜雙学校 		<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜市社会福祉協議会 地域支援係 地域福祉コーディネーター 児玉 正貴子 杉山 弘 ・障がい者生活支援センター 中村 菜穂子 ・岐阜県立岐阜雙学校 						
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：きいて、きいて、きいてみよう - インタビューをするとき - (話す・聞く) ・社会：わたしたちの生活と食料生産 ・算数：整数と小数 ・理科：魚のたんじょう 花から実へ ・家庭科：私と家族の仕事 			<ul style="list-style-type: none"> ・国語：どちらを選びますか - 互いの立場を明確にして、話し合おう - (話す・聞く) 		<ul style="list-style-type: none"> ・国語：提案しよう、言葉とわたしたち - 事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう - (話す・聞く) ・統計資料の読み方 - グラフや表を用いて書こう - (書く) ・社会：わたしたちの生活と環境 ・算数：帯グラフと円グラフ ・家庭科：家族はととタイム、やってみよう家族の仕事 						

5年2組 単元シート 単元名 「暮らしをつくる」 ～あの人の暮らしを創造する～ (53)		本単元目標		
		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
		障がい者の幸せな暮らしを創造しようと、自分で課題を立て、自分にできることは何かを考え判断し、解決に向けて実行することができるようにする。	障がい者の幸せな暮らしを創造する中で、他者とつながり、自分の考えを発信したり、他者の考えに共感したりしながら、次の活動へつなげることができるようにする。	障がい者の暮らしを「自分ごと」のように思い、少しでもその暮らしをよりよくするお手伝いがしたいという態度を養う。
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ○聾学校の児童とどのように関わっていくとよいのか考える。 ○聾学校の児童と何ができるのか関わり方について考えたプロジェクトを実行する。(8) 	<ul style="list-style-type: none"> ○聾学校の児童と関わりを繰り返し、それぞれのプロジェクトの振り返りをする。 ○自分たちが行ったプロジェクトについて中村さんにアドバイスをもらう。 ○聾学校の児童のために、どのような活動をするとお互いに楽しいものになるのかプロジェクトを再構築する。(15) 	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクト活動を通して、「自分たちができることを聾学校の子たちに何かできるかだけでなく、もっと多くの人に障がい者の暮らしについて知ってもらいたい」という願いを基に、「暮らし展」を開く企画を考える。(16) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「暮らし展」を開く。 ○これまでの探究を振り返り、整理、まとめる。 ○「幸せな暮らしを共に創る」ことを通して学んだことを学年の仲間や障がい者支援センターの人、社会福祉協議会などに発表したいと願いをもつ。 ○これまでの学習について発表する。(14)
加筆修正欄				
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・聾学校の子たちとの関わり方は、耳が聞こえにくいからどのようにするのがいいのかな。 ・聾学校の子たちに自分たちが考えたプロジェクトを楽しんでもらいたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聾学校の子たちは楽しかったのかな。どうするもっと楽しんでもらえそうかアドバイスをもらいたいな。 ・聴覚障害についてもっと学びたいな。 ・自分たちだけではなく、お互いが楽しいものにするためにはどんなことが必要かな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちだけではなく、もっと多くの人に障がい者の暮らしについて知ってもらいたいな。 ・「暮らし展」を学校で開いて、自分たちが学んできたことや感じたことを知ってもらえるようにポスターや動画を作ってみてもらおうのはどうかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここまでの探究で、障がいがある人の暮らしを見つめる中で、一人一人の価値観は、その人の今の暮らし方やこれまでの暮らしてきた歴史がとても関係していることが分かり、相手の幸せを考えると、相手に寄り添うことの大切さを学んだ。 ・自分が学んできたことをもっとたくさんの人に知ってもらいたいな。
実際の姿				
■ エラー ● ジレンマ	<ul style="list-style-type: none"> ■自分のしていることが、相手の暮らしを支えることにどうしてつながっていないのだろうか。 ●聾学校の児童を思って考えたプロジェクトだけど、自分たちは楽しくできるけど聾学校の子がそう思っているのか分からない。このままプロジェクトを進めているのか、辞めた方がいいのか。 ●聾学校の児童にとっての暮らし方からすると、自分は何か助ける立場なのかと葛藤する。 ■もっと障がい者の方の暮らしを知ってもらうためには、何を実行することが必要なのかが見えてこない。 			

5年2組 本時案

(1) 目標

「聾学校の子とお互いが楽しい活動を行うためにはどうしたらよいか」というテーマについて仲間と対話する活動を通して、初めの自分の思いが自分本位で考えてしまっていたことに気付き、中村さんのアドバイスや聾学校の児童の思いも受け入れたプロジェクトをつくることができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

自分の考えや意見を仲間に伝えるとともに、自分の意見と仲間の意見を比べながら共通点や相違点を考え、聾学校の児童との活動の仕方について考え・議論する。(相互理解)

本時 (22/53)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け
<p>1 今までの活動の振り返りを共有する ○今までプロジェクトを立て活動してきたけど、どう感じた？振り返りを教えてほしいな。 ・聾学校の子たちのために手話などを覚えて、それが聾学校の子に伝わって嬉しかった。 ・手話を覚えたけどもっと一緒に活動をして仲良くなっていきたいな。 ・中村さんに「自分たち目線で考えるのではなく、聾学校の子の思いも聞くことが大切だよ。」と教えてもらったので、そのことも大切にできるプロジェクトを考えていきたいな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分たちと聾学校の子のお互いが楽しめるように活動を進めるためにはどうしたらよいだろうか。</p> </div> <p>2 自分の考えをもつ。ワークシートに課題設定後、自分の考えをワークシートにまとめる</p> <p>3 仲間との対話を通して、お互いが楽しいということについて考える ○お互いが楽しいと思える活動にするためにはどんなことが必要なのかな？ ・お互いのことをもっと知らないとなんか楽しいと分からないと思う。もっとたくさん関わりたいな。 ・聾学校の子も楽しいと感じるためにまず聾学校の子にどんなことが好きなのか、どんな遊びが楽しいかなどインタビューしてみたいな。 ・自分たちがしてあげたいと考えるのではなく、同じ小学生として楽しいことを一緒に考えたいな。 ・手話やボードなどを使って会話をしながら楽しんでいることがお互いに分かるとういのか。 ・してあげたいと思っていたけど、中村さんから教えてもらったように同じ小学生として考えたら自分たちが楽しいと思う遊びは同じように楽しいのではないかな。 ・聾学校の子と仲良くなるためにたくさん会話したい。そのためには聾学校の子に手話を教えてもらいながら会話をしてみたいな。</p> <p>4 本時の学びをワークシートで振り返る ・今までは、自分たちが聾学校の子に何かしてあげられることはないかなと考えてきたけど、あげたいじゃなく聾学校の子も自分もお互いが楽しめるような活動にするために一緒になって遊べるように遊びを工夫していきなと思った。中村さんからアドバイスをもらったように、助けを求めているわけではなく、自分たちと同じという立場で考えることが大切だと改めて思った。</p>	<p>○振り返りを共有するために、ワークシートに今までの振り返りについてまとめ、自分の思いを書かせておく。</p> <p>○これまでの活動や対話によって自分が考えたことを再度確認することで、本時で自分たちが話し合うテーマを一人一人が見つけられるようにする。</p> <p>○自分の考えを書く時に、今までの活動はどのような気持ちで行ってきたのかを振り返りながら書くように促すことで、自分がしてあげたいという気持ちが強かったことに気付くことができるようにする。</p> <p>○中村さんのアドバイスや今までの活動の経験に立ち返りながら考えることができるようにポートフォリオや掲示(学びの足跡)の活用を促す。</p> <p>○対話をする際、児童が道徳的価値判断に迫ることができるように、「自分の意見とどんなところが同じ？違う？で考えてみるといいよ」と道徳的価値の視点で問い返す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>目標に迫った姿をどのように見届けるか テーマについて対話したことをもとに、聾学校の児童との活動の仕方を見直し、お互いが楽しいプロジェクトを考えている。 (問題解決力) ・発言の様子やワークシートの記述から見届ける。</p> </div>